

特集

わかりあい みとめあい ささえあう

～障害者が地域で安心して暮らし続けるために～

問▶ 障害福祉課(☎71)2259



平成30年4月1日時点で、市内には障害者手帳を持っている人が7597人住んでおり、その多くは家族や支援者の力を借りながら暮らしています。

しかし、暮らしを支える家族の高齢化や、障害者自身の障害の重度化等により、障害者が住み慣れた地域で暮らし続けることが困難になってきています。この特集では、そうした状況の中、障害者が地域で暮らし続けるために、本市が行っている支援等の取組みを紹介します。

障害者に対する相談支援等を行う事業所で働く小川さん(前列中央)とスタッフの皆さん

安城市の「地域生活支援拠点等」のイメージ図



ハルナ(桜井町)



ぬくもりの郷(赤松町)



めだかくらぶ(里町)



ほっとみるく(和泉町)

緊急時の受け入れ

短期入所事業所(市内4カ所)

介助者の急病や障害者の状態変化等、障害者が自宅で介助等を受けることができない緊急時において、受け入れ等の対応を行っています。

◆事業所の声(ほっとみるく・黒川さん)
今後、障害福祉サービスを利用していない人へも迅速に対応できる仕組みづくりをしていく予定です。

相談

相談支援事業所

夜間、休日等の緊急時に相談ができる窓口を設置し、障害者からの相談を受け付けます。

◆夜間・休日等緊急時における相談
相談支援事業所ひだまり(☎090(9178)3339)



専門性

安城市自立支援協議会、 基幹相談支援センター

重度化する障害に対応できる高度な専門知識を有する施設職員の確保・育成をします。



社会福祉会館(赤松町)

障害者が地域で安心して暮らしていけるよう、必要な支援を考え、様々な方面の関係者を集めて、その人の応援団を作ることがコーディネーターの役割です！



コーディネーターの山北さん

地域の体制づくり

地域生活支援拠点等 プロジェクトチーム

基幹相談支援センター、コーディネーター、障害福祉サービス提供事業所及び市が情報共有や課題検討の機会を設けています。また地域包括支援センター、医療機関、衣浦東部保健所とも連携し、障害者を支援します。

体験の機会・場

日中活動サービス事業所

「親亡き後」を見据えた将来的な自立や、病院・入所施設から地域での生活への移行にあたって、一人暮らしの体験の機会・場を提供します。



室内の様子



バストマトズ(別郷町)

◆事業所の声(バストマトズ・牧原さん)
地域で暮らしていくにあたって、より生活しやすくなるように活用してもらい、視野や世界を広げてもらえたらと思います。

安城市では、「親亡き後」を見据えた障害者の自立支援や、重度化した障害者への対応等を目的とした「地域生活支援拠点等」を平成29年4月に整備。障害児・障害者が住み慣れた地域で安心して生活できるように、地域全体での支援に取り組んでいます。

◆12月3日(月)～9日(日)は「障害者週間」です
国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深める期間です。この機会に障害のある人に対して、どのような支援ができるか考えてみませんか。そして障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し、みんなで支え合う社会を実現しましょう。



◆「地域生活支援拠点等」が整備されたことで、事業所だけで抱え込まずに、支援を繋いでいく場所やSOSを出せる場所ができ、とても安心していきます。
「地域生活支援拠点等」が整備されたことで、事業所だけで抱え込まずに、支援を繋いでいく場所やSOSを出せる場所ができ、とても安心していきます。

◆今後の活動は？
障害福祉サービスのネットワークだけでなく、地域の人が障害者に声掛けする等の環境が整うことで、そこで安心して夢を持って長く生活していけるようになりたいです。これからもそんなまちづくりの一端を担っていきたくです。



◆コーディネーターについて
社会福祉法人ぶなの木福祉会の山北さんに聞きました。
●仕事の内容を教えてください
緊急時はSOSがあれば駆けつけて支援をします。平常時は不安を抱える障害者と支援者をつないだり、緊急時にスムーズな対応ができる体制づくりをしたりしています。
●こんなこともありました
長い間引きこもり等で社会との関わりを持たず、本人も家族も高齢化してしまった家庭に対して、地域包括支援センターや医療機関と一緒に支援に入ったことがあります。